

九州自然学校協議会代表・RQ九州代表・認定NPO法人地球市民の会理事長
一般社団法人アイ・オー・イー代表理事
山口久巨さん（現地目線の話）

【熊本南部豪雨大水害2020】

人吉が被災

線状降水帯が8時間程度居座った
球磨川が氾濫 20メートル水位が上がったのでは？
9割ほどの橋がなくなる

家ごと水につかるイメージ・山の麓まで水に浸かる
川津波とも言われている

住民は事前に避難していた

とても住める状態ではなかった
道路が泥で覆われる
床上浸水1mのところも
自衛隊も本格的に動いていた
災害はいつ起こるか分からないので、日ごろから備えておく
文明の発達と災害の規模は反比例する

RQ九州の方針

被災地の現地カウンターパートと連携も、コロナにより一時撤退

【熊本大地震2016】

2016年4/14, 16

布田川断層が原因（今回の地震で解放）
日奈久断層はまだ危険な可能性がある

益城町が一番ひどかった場所
益城町～西原村にかけての布田川断層が露出
益城町商工会に支援物資の配給所

RQ九州ネットワーク（事前学校系の団体が中心）として活動

地震の3タイプ

- ・プレート型→南海トラフ
- ・活断層型→首都直下型
- ・火山性→富士山の噴火

山間部を中心に大きな断層、地割れができる

1889年にも一度震災に苛まれた

まだこの地域で大地震が起こる可能性は大いにある

首都直下型地震も油断できない状態

南海トラフもちろん、首都直下地震、富士山噴火の3つを念頭に警戒する必要がある

NPO法人五ヶ瀬自然学校理事

杉田英治さん（周辺地域からの目線）

【熊本地震2016】

RQ九州五ヶ瀬ボランティアセンター

2016年4/14, 16

Facebookが役に立った災害

しかし、相手の返信がなければ動きにくい点が難点

想定しないといけないことが多く、確かな情報がないと被災地に向かいづらい状態だった

facebookで南阿蘇まで行くことができることを確認できた

4/14, 15あたりはあまり動けず・・・しかし、知り合いが熊本までたどり付けたので支援に行けることが判明

- ・ 親戚の所に行くついでに近隣の地域の支援

4/17 南阿蘇の役場（公的避難所）に向かう

- ・ 本来は400人収容だが800人いた
- ・ 南阿蘇西小学校に炊き出し支援（公的避難所ではない）

その後、RQ九州に合流

4/19五ヶ瀬ドームを解放してもらい、物資の拠点に

カウンターパートナー（現地で支援を受け入れてくれる人）探し

まずは地元が中心になるのでそこをいかに取り込めるか

行政区が違うことによって助けから漏れるひとがいた→その人々を助ける

RQは行政など他の支援が届いていないところを支援する

RQ九州設置までの流れ

- ・ 知り合いのネットワークを活用（友達の友達までに限定）
- ・ 連絡先は杉田の携帯で一本化

- ・施設確保は重要→そこで働けるボランティア重要・人数が必要
- ・RQの設置により物資、人手ともに一定数確保することができた
- ・助けられるのは友達の友達まで

Gドーム→馬見原体育館→キャンプ場

- ・配送は2人以上でいく
- ・ボランティア集めは難しい→発信力・広報力
- ・民間の難点、人手の確保が一番難しい

【熊本南部豪雨大被害2020】

コロナ禍ということもあり、満足に支援ができなかった。

コロナ禍で中間のコーディネーターが不足していた

壱岐さん（周辺地域からの目線）

杉田さんとはキャンプでの繋がりがあった

普段からの繋がりが・信頼

吉村真一さん（周辺地域からの目線）

【熊本地震2016】

- ・東日本に焼肉を支援
- ・その後、宮城・宮崎の交流があった
- ・宮崎大学の学生が集めた物資を届ける

壱岐さんから話があり五ヶ瀬に移動

自分たちにできることを理解し、それをやり続ける

杉田英治さんの活動に参加することに決めたが、どうしていいか迷った

結論、五ヶ瀬に物を集めることに

食品は難しい

食品は被災地で使える使えないを判断する必要がある

→単体では役に立たない（芋単体では食えない・料理になってこそ食べる）

最初は人力が中心だったが、重機の導入により効率が大幅に良くなった

人手が足りることは精神的にも大きい

ダンプ・道具をもって瓦礫撤去に行く

その後は重機を使うことができ、楽になった

ボランティアは学生がするものというイメージ？

ボラセンにならんでするイメージ？

自分たちは仕事もある・土曜日でも休みではない中でどう動くかを考えた

宮崎の方は支援よりどう生き抜くかを考えた方がいい

溝口隼平さん（熊本南部豪雨大被害について）

人手不足のため、重機でできる作業はできるだけ重機に頼る。

- ・ 声が届く範囲で重機を入れていく
- ・ 重機の免許を持っている人が多かった
- ・ より専門性が高い場所が残る→スキルがある小林チームに依頼

赤字もある程度出たが、順調に復興ができていた。

熱中症対策のため、RQから冷凍庫の支援があった。

現場作業員の健康を保つことも大切。

その他質疑応答

- ・ 被災地とそれ以外との意識の差がある
 - 被災してみないとわからないのか？難しいのか？
 - 痛みを知らないと人助けには身が入らない
- ・ 災害支援は適材適所 自分に何ができるのかを考える
- ・ 顔が見える関係は重要
- ・ 旅費などを考えると遠方からの支援は難しい
- ・ 遠方でもスーパーボランティアなどは本当に助かる
- ・ 行ける人がコロナによって現地に入れない問題が深刻
 - 長期滞在することによってリスクを下げ、安定する
- ・ 情報網を作っておくことは誰にでもできるのでは？
 - 動けそうな人、重機とか
- ・ グレーゾーン運営
 - 行政や一般的なルールはあるが、災害時は拡大解釈してチャレンジすべき
 - うまく行けば評価されそれがルールになる